



報道関係者 各位

NPO法人 放送批評懇談会

発表！2024年10月度ギャラクシー賞月間賞

放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、テレビ、ラジオの番組、関係者を顕彰する「ギャラクシー賞」。ことしで62年の歴史を誇ります。

ギャラクシー賞テレビ部門では、「ギャラクシー賞」活動の一環として、毎月、自主的に番組を推奨する「月間賞」を選定しております。今月の月間賞を別紙のとおり発表いたしますので、貴媒体でお取り扱いのほどお願い申し上げます。

ギャラクシー賞テレビ部門は、この日常視聴に基づく「月間賞」と、各社からの応募作品を併せて審査を重ね、毎年の受賞作を決定いたします。2025年6月上旬開催予定の贈賞式にて、大賞をはじめとする各賞が決定、表彰されます。

今後の選考にもご注目いただければ幸いです。

●放送批評懇談会について：1963年の発足以来、評論家、ジャーナリスト、マスコミ研究者などを会員に、各種の活動を展開しております。放送の専門誌・月刊「GALAC（ぎやらく）」の編集・発行、優れた番組・CMを顕彰する「ギャラクシー賞」の選考・運営、メディア界の動きを解説するセミナーやシンポジウムの開催などを行なっています。

●過去の受賞作をお探しの場合は「ギャラクシー賞データベース（<https://houkon.jp/galaxy-database/>）」をご活用ください（掲載内容：作品名、放送局・制作社名、制作者、出演者、受賞理由など）。

Facebook



X (旧Twitter)



Instagram



<お問い合わせ先>

NPO法人 放送批評懇談会／担当：福島
〒160-0022 新宿区新宿 5-10-14 中村ビル 2F
Tel：03-5379-5521 Fax：03-5379-5510
kondankai@houkon.jp <https://www.houkon.jp/>

**2024年10月度ギャラクシー賞月間賞****拝啓 十五の君へ～30歳になった私からのメッセージ～****10月2日放送 22:00～22:44 日本放送協会**

30歳になった若者が15歳の自分に宛てた手紙に綴った等身大の生きざま。ドラマやドキュメンタリーで見かけがちな波乱に満ちた出来事は無いが、社会に出て成長していく過程で誰もが経験する不安や悩みや充実がとても身近に響いた。15歳、20歳、30歳と続いた若松中学3年A組の定点観測、今後も人生の節目で実現してほしい。

NHKスペシャル「If I must die ガザ 絶望から生まれた詩」**10月13日放送 21:00～21:50 日本放送協会**

ユダヤ人とも交流をしていたガザの詩人がSNSに詩を掲載したのち、イスラエルの空爆で死亡した。「自分が死ななければいけないのであれば、その物語を伝えてほしい」という遺作は70以上の言語に翻訳され広まっている。彼の言葉と物語は永遠に残された。その力が大きなうねりとなり、一日も早く停戦が実現してほしいと、心から願う。

テレメンタリー2024「沈黙の搾取 見過ごされた障害者虐待」**10月19日放送 4:50～5:20 北海道テレビ放送**

北海道恵庭市の遠藤牧場で20年を超える長きにわたり、知的障害者が劣悪極まる環境下、無報酬状態で働かされていた。牧場主の病死を経てようやく彼らは裁判に訴えたのだが、以前からその苛酷な実態を知る立場にあった恵庭市が彼らの苦難を黙殺していた不作為状況に言及し、障害者虐待への社会的監視の貧しさに警鐘を鳴らす。

プレミアムドラマ「団地のふたり」**9月1日～11月3日放送 22:00～22:49 日本放送協会 テレパック**

非常に丁寧に仕立てられた人情スケッチ。築50年を超える老朽団地の実家に出戻って暮らす二人の50代女性の交情譚は、カッコつけることなく本音で語り合う熟年ガーリートークが実に自然でホッとさせるが、そこに今の日本の閉塞的で先の見えないありようも、深刻になりすぎずにさり気なく描かれている。

★詳細は月刊誌「GALAC」2025年1月号に掲載します